

表1 地理学教室の規模・構成・設備

スタッフ	専任教員8名(うち助手1名) 兼任教員1名(他学部専任) 非常勤講師16名(大学院のみの担当者を含む)
学生数	学部 各学年I部定員 50名(臨時定員増期間中は55名) 全学年在籍者数300名(1990年2月6日現在, 原級生を含む) II部定員 25名 全学年在籍者数124名(1990年2月4日現在, 原級生を含む) 大学院 博士前期課程 各学年定員 5名 全在籍者数8名 博士後期課程 各学年定員 2名 全在籍者数3名
研究室	研究室数13(教員研究室8, 実習室1, 準備室1, 実験室1, 和泉キャンパス地理学実習室1, 地理学院生研究室1)
設備ほか	設備・地理学関連の図書・雑誌・資料などのおもなものは、スペースの問題や他専門分野の教員・学生の利便も考え、基本的に大学図書館が集中的に管理している。 ・教室では国内外の地形図・地質図、国内主要地域の航空写真、SEMをはじめ地形・地質・測量・気象など自然地理学関係の実験・実習機材を揃えている。 ・コンピュータなどの情報機器の利用については、「情報科学センター」がさまざまなメニューを用意しており、地理学専攻生も一般教養科目として受講し、施設を利用することができる。当該科目受講者以外でも若干の登録料を払えば、パソコン、大型コンピュータ、グラフィック機器などを利用することができる。

表2 教員とおもな研究テーマ

教授	石井素介	資源・災害論, 農村地域開発論
〃	松田 孝	京浜工業地域, 工業地域研究
〃	小崎 尚	水河・周水河, 山地の地形
〃	長岡 顕	地方都市, スペイン経済誌
〃	杉原重夫	地形発達史, 第四紀編年
助教授	藤田直晴	空間組織論, 現代都市の形成機構
〃	松橋公治	産業立地, 工業の地域構造
助手	叶内敦子	植生地理学, 花粉分析による植生変遷史

している。専門分野別内訳をみると、前期課程では自然地理二名、人文地理六名(女子一名)、後期課程では自然地理二名、人文地理一名となる。出身大学別で

は、前期課程では本学出身者六名(Ⅰ部四名、Ⅱ部二名)、他大出身者二名である。後期課程はいずれも本学出身者である。キャンパスは二つに別れており、Ⅰ部・Ⅱ部(教養課程)のみ杉並区和泉キャンパス、Ⅰ部三・Ⅱ部全学年、大学院は都心の駿河台キャンパスで学ぶ。研究・教育施設のおもなものは、教員研究室の他に、地理学実習室、準備室、実験室、大学院の地理院生研究室などである。実習室は地理学プロゼミ、研究法、演習あるいは地理学実習説明会、実習のまとめの研究会などに利用される。準備室には地形図、航空写真、若干の図書・資料類が置かれており、研究法や演習などに利用されている。実験室には、自然地理学研究に必要な電子顕微鏡などの機材・備品が置かれており、卒業論文作成時には学生も利用している。地理学関連の図書、雑誌、資料類の大半は大学本部の図書館に集中保管されているが、故岡山俊雄教授をはじめとする

地理学教室あんなに

私立大学編

第9回 都心に立地、自由な気風の伝統 明治大学文学部地理学教室

1 はじめに

現在、明治大学文学部には、文学科と史学地理学科の二学科が置かれている。地理学教室は史学地理学科を構成する五専攻のうちの一つである。

当地理学教室の歴史は、一九三二年に創設された文科専門部史学科にまでさかのぼることができ、すでに半世紀をゆうに越えている。しかし、実際に教室としての内容を備えるようになるのは一九五〇年代中頃のこととなる。この時期になると、大学進学者数が全般的に増加するなかで、地理志望者もふえ、これに対応

して専任スタッフの積極的な拡充も図られるようになる。学生定員や教室の組織・運営などにかかわる基本形がこの時期に創り上げられている。その後、教育の高等化という時代の趨勢に添えて、一九五七年には大学院文学研究科修士課程(現博士前期課程) 地理学専攻、一九六四年には博士課程(同後期課程) 地理学専攻を開設し、地理学の教育と研究の発展に努めてきた。

現在の教室の専任スタッフは八名である。専門分野別内訳は、人文地理学分野が五名、自然地理学分野が三名(うち助手一名)である。明大地理学教室の成り

立ちについては、創設以来の大黒柱であった故岡山俊雄先生が書き遺された記録(「明治大学文学部地理学教室の歩み―文科専門部史学科・地理歴史科時代―」『駿台史学』第三十五号、一九七四年)がある。また、教室のその後の発展と特色については、松田 孝教授が著した教室小史(「地理学専攻」『明治大学文学部五十年史』一九八四年)に詳しく論じられている。

2 規模・設備・蔵書・地図

明大地理には、現在学部のⅠ部に約三百名、Ⅱ部(夜間部)に一二四名が在籍している。近年女子学生の割合が増加してきており、全体の二割五分を占めるようになってきている。卒業論文の専門分野別では、おおむね自然地理一・二割、人文地理八・九割の構成となっている。大学院には、博士前期課程に八名、同後期課程に三名が在籍(一九八九年年度)

3 地理学実習と講義カリキュラム

当教室のカリキュラムは三つの流れをもって組み立てられている。第一は、地理学プロゼミ―研究法―演習―卒業論文という小人数での専門教育の流れであり、第二はその他の専門教育科目や一般教育科目などによる基礎知識、幅広い専門知識の蓄積に関する流れであり、第三は地理学実習など野外における地域調査法の習得に関する流れである。これらは学生の進むごとに専門化の度合いを強めてゆく。

一年次には、一般教育科目のなかに地理学への入門講座としての意味をもつ地理学プロゼミが設置されている。二年次には、必修の専門教育科目である地理学研究法が置かれ、ここでは自然と人文の両分野の地理学研究のための手順・方法、知識・技術を習得する。例えば、文献調査法、資料の収集・解析とその図表化の方法、地形計測および空中写真の判読、さらに地理学実習による地域の実態の把握と調査法の手ほどきを受ける。
一・二年次に置かれている専門教育科

表3 開講科目と担当者 (1989年度)

科目名	単位	配当年次	担当教員名
〈一般教育科目〉 地理学 (プロセス)	4	1・2	I部-松田 孝, 長岡 顕, 藤田直晴 II部-小崎 尚, 松橋公治
地理学	4	1・2	I部-瀬戸玲子*, II部-横山秀司*
自然地理	4	1・2	I部-杉原重夫, II部-松本 淳*
〈専門教育科目〉 -必修科目-			
人文地理学概説	4	1・2 (1~4)	I・II部-石井素介
地理学研究法	2	2	I部-杉原重夫, 松橋公治 II部-杉原重夫, 藤田直晴
地理学演習	2	3	I部-石井素介, 松田 孝, 小崎 尚 長岡 顕, 松橋公治 II部-長岡 顕, 藤田直晴, 江波戸昭**
卒業論文	4	4	I部-石井素介, 松田 孝, 長岡 顕 杉原重夫, 藤田直晴 II部-小崎 尚, 長岡 顕, 松橋公治 専任スタッフ全員, 江波戸昭**, 中村六郎*
地理学実習 -選択科目-	2	1~4	
地図学	4	1・2 (1~4)	I・II部-瀬戸玲子*
地理学史	4	3・4 (1~4)	I・II部-千葉徳爾*
自然地理学 I	4	3・4 (1~4)	I部-小崎 尚, II部-米倉二郎*
自然地理学 II	4	3・4 (1~4)	I・II部-河村 武*
経済地理学	4	3・4 (1~4)	I部-長岡 顕, II部-松田 孝
測量学	4	3・4 (1~4)	I・II部-中村六郎*
日本地誌 I	4	1・2 (1~4)	I部-関根鎮彦*, II部-松本 淳*
日本地誌 II	4	3・4 (1~4)	I部-原田敏治*, II部-長島弘道*
外国地誌 I	4	3・4 (1~4)	I部-栗原尚子*, II部-岩淵 孝*
外国地誌 II	4	3・4 (1~4)	I・II部-古賀正則*
外国地誌 III	4	3・4 (1~4)	本年度開講せず

注: 地図学, 自然地理学 I, 自然地理学 II, 測量学を修得すれば測量士補の資格が得られる。

I部とII部の配当年次が異なる場合にはII部の配当年次を()内に示した。**印は兼任教員, *印は非常勤講師。

教室スタッフの長年の努力により基本文献はかなり揃えられている。欧文学会誌のバックナンバーの整備はわが国を代表するものであり、スタッフの専門の関係もあって、寒冷地形、火山地形、ドイツ、スペイン、アメリカ、カナダ関係の文献資料もかなりよく揃っている。また地図類は、国内はもとより、西ヨーロッパ諸国の五万分一地形図、その他主要国の一〇万と二五万分一地形図が揃っているほか、古地図類や世界の主要都市街図などの収集・整備にも努めている。

表4 大学院の講義カリキュラム (1989年度)

科目名	単位	担当教員名
〈主要科目〉		
自然地理演習	8	小崎 尚
人文地理学演習 I	8	松田 孝
人文地理学演習 II	8	長岡 顕
地誌学演習 I	8	石井素介
地誌学演習 II	8	杉原重夫
〈特修科目〉		
自然地理学特論 I	4	大矢雅彦*
自然地理学特論 II	4	開講せず
人文地理学特論 I	4	江波戸昭**
人文地理学特論 II	4	千葉徳爾*
地誌学特論 I	4	佐藤 久*
地誌学特論 II	4	開講せず
地理学合同演習	8	大学院担当専任スタッフ全員

注: **印は兼任教員, *印は非常勤講師。

地理一、人文地理四、II部に自然地理一、人文地理二設置される。専攻生は自然地理と農業・工業・都市地理などの人文地理のなかから自分が関心を寄せるゼミを選択する。各ゼミには、数名から十数名が属し、学生のインチャティブのもとに運営される。教員はゼミの運営方法やテキスト選定などの相談にのり、問題提起をしながらゼミ討論に参加する。また、夏休みにゼミ単位で三泊四日の実習が実施されるので、前期はその準備に忙しい。その成果は、例年十一月に開催される駿台地理談話会において発表され、その後ゼミ報告書としてまとめられる。

四年次になると、卒業論文指導の時間が必修科目として設置されている。原則として、三年次の演習のもちあがりである。ここで四年間の勉強の成果を集中し、各自が現地調査を主体にした論文をまとめることになる。提出した論文について、例年二月上旬に口頭試問が行われ、これ

表5 地理学実習(巡検)の地域とテーマ(1989年度)

石井教授	長野県立科町	立科町の農業と観光業
松田教授	つくば	筑波研究学園都市における居住環境について
小崎教授	立山	北アルプス、立山・御山谷の自然環境について
長岡教授	横手	地域経済と商業活動～秋田県横手市～
杉原教授	八丈島	八丈島島央平坦地における溶岩原と波食台の形成について
藤田助教授	東京	高速交通体系における「長距離バス」の役割
松橋助教授	仙台	仙台市におけるさまざまな都市問題について
江波戸教授*	山形県朝日村	地域農業と農協加工—山ぶどう栽培を例に—

注：3年次に配当されている3泊4日におよぶゼミ実習のみを示したが、例年この他に新入生実習や10数回の日帰り実習が実施されている。

*印は兼任教員。

表6 卒業生の動向、就職傾向(1989年度)

	学部一部	学部二部
教員	2	1
公務員	19 (2)	1
製造・建設業	2 (5)	3
商業	9 (1)	2
金融・保険業	9 (1)	5 (1)
不動産業	4	
運輸・通信業	4	2
サービス業	14 (2)	5 (1)
未定・不明	8	5 (2)
大学院進学		1 (1)
合計	71 (11)	26 (5)

注：()内は女子学生数。未定・不明には大学院進学希望者を含む。

5 教室の出版物と卒業生が中心となる組織

教室独自の出版物はないが、学内において専任教員は史学地理学科の教員・卒業生でも組織する駿台史学会の機関誌『駿台史学』と『人文科学研究所紀要』に、大学院生は『明治大学大学院紀要』に投稿する機会をもつ。

在學生、卒業生の参加する研究会組織として、駿台地理談話会が存在する。これは、おもに學生により運営されており、卒業生と教員の参加のもとに、年二回の大会を開催している。前期の大会は大学院生の発表を中心に、時には卒業生の研究報告も加わる。後期の大会は三年生の

にパスしなければ卒業できない。三・四年次になると、地理学史、自然地理学Ⅰ・Ⅱ、経済地理学、測量学、日本地誌Ⅰ・Ⅱ、外国地誌Ⅰ・Ⅱ・Ⅲなど、選択科目が多数配当されるようになり、専門的な勉強をするようになる。同時に、これらは、教員や学芸員あるいは測量士補などの資格取得のための認定科目ともなる。

地理学実習は自然や経済・社会の特徴を実際の地域において観察・調査するために設置された必修科目である。専攻生は、在學中に少なくとも九〇時間(一日九時間換算)参加し、レポートを提出して規定時間数の認定を得なければならぬ。日帰り実習が圧倒的に多く、毎年十数回実施されている。泊りがけ実習では、ゼミ実習の他に、新入生歓迎実習が五月頃に一泊二日で教員、在學生と大学院生有志の自主参加のもとに盛大に行われる。ここでの先輩達のいろいろな「教育的指導」が新入生の緊張感をほぐし、教室の雰囲気自然に溶け込ませるのに大いに役立っている。このように、地理学実習は、地理学における最も基本的な研究手

夏期ゼミ実習の調査報告が中心となる。毎大会教員による特別講演が行われている。また談話会はその発足以来、以前から毎年発行されてきた明大地理伝統の学部生、大学院生、教員など教室関係者全員を網羅した名簿・住所録の作成作業を継承している点においても重要な役割を果たしている。

卒業生の組織としては、一九八

八年一〇月一日に地理学卒業生の同窓会が発足した。長い歴史を有する割には大変に遅い組織づくりであった。これには、まことに明大地理らし

い理由があったようである。教員と卒業生あるいは卒業生間の交流はクラス会、結婚式などへの出席を通じて、あるいは普段の付き合いのなかで割合活発に行われてきている。このために、形式的な組織をつくる必要

法を習得する機会という意味ばかりでなく、教員・學生・大学院生間の親和を図る場として、明大地理学教室においては伝統的に重きをなしてきた科目の一つである。

4 卒業生の動向・就職

すでに、三千名を超える卒業生が、日本はおろか世界各地で活躍している。ここでは、一九八九年度の就職内定先(表6)を参考にして、その特徴を示してみよう。近年の傾向としては、社会経済情勢の変化を敏感に映し出す形で推移しており、従来最も大きなウエイトを占めてきた教員は、教員の採用がひかえられてきたことから減少し、代わって国家公務員、地方公務員への進出がここ数年来目立つようになってきている。民間部門では、以前から旅行代理店、地図会社、測量会社に就職する者が多かった。しかし、近年では、製造業部門、商業・サービス部門、金融部門などへの進出が顕著になってきており、就職先がかなり多様化してきている。

性がそれほど切実に感じられなかったことも一因になっているようである。今後は、同窓会が中心になって、卒業生間の交流がなお一層活発化していくものと期待している。

最後に、当教室は、東京のまさに都心に立地しており、交通の至便性は他に類をみないであろう。今後も「知の交流の場」として、地理学分野からの積極的な活用を願う次第である。

(明治大学助教授 藤田直晴)
連絡先：明治大学文学部地理学教室
東京都千代田区神田駿河台一―一
〒一〇一 電話〇三―二九六―四五四五(代)

公共サービスの地域格差とは 都市問題と公共サービス

S.ピンチ著 神谷浩夫訳
菊判 264頁 定価2800円

住宅や教育、福祉サービスなど公共サービスの地域格差はなぜ生じるのか。その立地効率・立地紛争などに関する諸理論について、イギリス・合衆国の事例を交えて解説するとともに、これからの公共サービスの展開を考えるうえで不可欠な視点を提示する。

◆本書の関連分野 都市社会学、政治学、財政学、地理学

古今書院 TEL.03-291-2757 FAX.03-233-0303
〒101 東京都千代田区神田駿河台2-10